

# 戦争と平和特集&

# 縄文遺跡群ユネスコ世界遺産登録記念上映

縄文遺跡群ユネスコ世界遺産登録記念 飯塚俊男監督『縄文三部作』上映 シアターI / 定員28名 2021.12.4~12.10

作品：飯塚俊男監督縄文三部作『木と土の王国』『一万年王国』『縄文うるしの世界』

日程：12月4日(土)~12月10日(金)

**12/4(土)の上映終了後、トークイベント開催!**

時間：13:00~16:00

ご登壇：飯塚俊男監督/岡村道雄(NHKラジオ深夜便『縄文夜話』)※お申込みは当館まで

※三部作通しでの上映になります。休憩はございませんが、各作品にエンドロールが流れます。毎週火曜日は休館日となります。

戦争と平和特集 CINEMA TIMETABLE シアターI / 定員28名 2021.12.11~12.24

12/11(土)	12/12(日)	12/13(月)	12/14(火)	12/15(水)	12/16(木)	12/17(金)
アレクセイと泉 13:00~ 14:45	戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 13:00~ 14:45	陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 13:00~ 14:10	休館日	戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 13:00~ 14:45	陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 13:00~ 14:10	アレクセイと泉 13:00~ 14:45
陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 15:15~ 16:25	アレクセイと泉 15:15~ 17:00	戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 14:30~ 16:15		アレクセイと泉 15:15~ 17:00	戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 14:30~ 16:15	陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 15:15~ 16:25
12/18(土)	12/19(日)	12/20(月)	12/21(火)	12/22(水)	12/23(木)	12/24(金)
戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 13:00~ 14:45	陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 13:00~ 14:10	アレクセイと泉 13:00~ 14:45	休館日	陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 13:00~ 14:10	戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 13:00~ 14:45	アレクセイと泉 13:00~ 14:45
アレクセイと泉 15:15~ 17:00	戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 14:30~ 16:15	陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 15:15~ 16:25		戦争の足跡を追って 北上・和賀の十五年戦争 14:30~ 16:15	アレクセイと泉 15:15~ 17:00	陸軍前橋飛行場 私たちの村も戦場だった 15:15~ 16:25

## 【特集上映鑑賞料金】

縄文三部作上映(12/4~12/10)

前売券1,300円/当日一律1,700円

戦争と平和特集(12/11~12/24)

各作前売券1,000円/当日シニア・学生以下1,000円/当館会員1,000円/  
当日一般1,300円※前売券は各作品鑑賞に1枚必要です。

○前売券のお買い求めは前橋シネマハウス(TEL.027-212-9127)または、アムール(TEL.090-3040-7695)へご連絡ください



### アクセス

#### 電車をご利用の方

JR 両毛線「前橋駅」より徒歩10分  
上毛電気鉄道「中央前橋駅」より徒歩5分

#### バスをご利用の方

「本町」から徒歩2分、「坂下」から徒歩2分  
「元気21北」から徒歩2分

#### 自動車でご来館の方

関越自動車道「前橋1.C」から車で約15分

[提携駐車場のご案内]

お車でご来場の方は以下の駐車場をご利用ください  
4時間までの無料券を発行いたします。

K'BIXパーキング元気21(千代田町5-1-15) 徒歩0分

市営パーク五番街(千代田町2-5-5) 徒歩5分

K'BIXパーキング千代田(千代田町2-2-1) 徒歩6分

広瀬川サンワパーキング(城東町2-3-8) 徒歩6分

前橋シネマハウス  
MAEBASHI CINEMA HOUSE



〒371-0022

前橋市千代田町5-1-16 アーツ前橋上(3F)

tel.027-212-9127 fax.027-212-9137

休館日：火曜日 [www.maecine.com](http://www.maecine.com)



## 「木と土の王国—青森県三内丸山遺跡'94」

監督：飯塚俊男／撮影：原正／ナレーション：高橋克彦／音楽：廣瀬量平／スタンダード/58分  
企画・製作：縄文映画製作委員会 制作：アムール

縄文映画三部作の第1作。撮影中に縄文中期の巨大な6本柱が出土し、縄文ブームが起こった。その先駆けとなった作品。

科学技術映像祭科学技術庁長官賞 日本産業映画コンクール教養部門賞 優秀映像教材選奨優秀賞 キネマ旬報文化映画第5位



## 「青森県の縄文文化 一万年王国」

監督：飯塚俊男／撮影：原正／ナレーション：立松和平／音楽：てん・仁智／スタンダード/58分  
企画・製作：縄文映画製作委員会 制作：アムール

縄文映画第2作。青森県の縄文遺跡を訪ねて、草創期から前期、中期、後期、晩期を辿る。青森は、縄文時代の全期にわたる遺跡があり、文字通り縄文の宝庫である。



## 縄文映画三部作完結編「縄文うるしの世界」

監督：飯塚俊男／撮影：原正／編集：渋谷昶子／語り：奥村潮／音楽：てん・仁智／スタンダード/60分  
企画・製作：縄文映画を作る会 制作：アムール

青森県では、津軽塗を始めとする伝統的な漆工芸が、今も盛んにおこなわれている。縄文時代の漆製品も数多く見つかっている。原始的で、遅れているとされてきた縄文時代が、漆を通してみると一変する。

文部科学省選定

科学技術庁奨励作品

## 『縄文三部作』上映トークゲストのご紹介



### ドキュメンタリー映画監督 飯塚 俊男

1947年前橋生まれ。東北大学在学中から、小川プロダクションに所属。独立後、最初の監督作品「小さな羽音—チョウセンアカシジミ蝶の舞う里」(92年)で文化庁優秀映画作品賞、キネマ旬報文化映画第1位を受賞。94年アムールを設立。「陸軍前橋飛行場」(18年)で、2か月のロングランを達成。

## トークテーマ

90年代に三内丸山遺跡など発掘調査が盛んに行われ、縄文文化の解明が進んだ。それまで弥生が日本文化の始まりと考えられてきたが、岡村は日本人の祖先は「縄文人」だという。縄文人の暮らしと文化にふれてみよう。

12/4(土)の上映終了後トークイベント開催

### 考古学者 岡村 道雄

縄文を専門とする考古学者。飯塚とは東北大学で同学年、1994年三内丸山遺跡で飯塚と再会。NHKラジオ深夜便「縄文夜話」に毎月出演している。

## 戦争と平和特集作品紹介

2021.12.11~12.24



## 「陸軍前橋飛行場—私たちの村も戦場だった」

文部科学省選定作品 第37回日本映画平和賞

18年/16：9/69分  
ナレーション：中村万里 朗読：長沢大  
監督：飯塚俊男／撮影：重枝昭典／構成：編集：鍋島 惇  
原作提供：鈴木越夫  
製作協力：陸軍前橋(堤ヶ岡)飛行場製作協力委員会  
配給：群馬共同映画社

戦争体験そのものが風化してしまいそうな今こそ、当時を生きた人々の証言や記録を子どもたちに語り継ぎ、二度と同じ道を歩むことのないように願い製作された。

【2018年7月5日朝日新聞群馬版より】

映画は戦争の悲劇を伝えるだけでなく、歴史の真実を記録する公文書管理のあり方も問いかける



## 「戦争の足跡を追って—北上・和賀の十五年戦争」

監督・企画・製作：都島信也／企画・製作・撮影・編集：都島卓也  
整音：若林大介／助監督：現場録音：藤崎仁志/105分

1967年、岩手県北上市和賀町藤根で7000通以上の軍事郵便が発見されました。これは、この地域で長年、教師を務めた高橋峯次郎さんに教え子たちから送られた手紙でした。出征した教え子たちに向けては、郷土通信『真友』を作成し、郷土の情報を伝え続けていました。この7000通以上の軍事郵便は、この『真友』を介しての教え子と恩師のやりとりの記録でもあります。峯次郎さんは、敗戦後、亡くなった教え子たちの鎮魂の想いを込めて、平和観音堂を建立しました。出征兵士から峯次郎さんに送られた7000通以上の軍事郵便は、現在、北上市和賀町藤根にある北上平和記念展示館に保管されています。この館内には、戦時資料約400点も展示されており、県内外からも見学者が訪れています。映画では、北上平和記念展示館の兵士たちからの手紙や、資料から、当時の様子や峯次郎さんの想いや兵士たちの想いを紐解きます。



## 「アレクセイと泉」

監督：本橋成一  
01年/104分

第57回ベルリン国際映画祭ベルリナー新聞賞&国際シネクラブ賞

ベラルーシ共和国ゴメリ州、ロシアとの国境に接するブジシチェ村。1986年4月26日、180キロ離れたチェルノブイリ原子力発電所で起こった爆発事故によって放射能に汚染されたこの村には、現在(2001年)、55人の老人と小児麻痺の後遺症のあるアレクセイという1人の青年が暮らしている。6千人いた住民は、政府の移動勧告によって村を去った。何百年、何世代に渡って大地を糧に営み続けてきた彼らの生活は昔と変わらない。収穫の夏は1年で一番忙しい季節。ジャガイモの収穫には、町に出て行った息子たちも手伝いに帰って来る。夏の終わりには収穫祭。そして、厳寒の冬には川や池に張った氷を割って川魚漁も行われる。しかし、村や周囲の森には今も放射能が検出されているのだ……村人たちの心の拠り所となっている百年の泉と呼ばれる泉を除いて。その泉は、事故以来、一度も放射能が検出されることなく、綺麗な水を混々と湧出している。ある日、泉の隣に作られた洗濯用の槽の木枠が修理されることになった。それが最後の修理になるだろうと途中で思いながら、作業を手伝うアレクセイ。やがて、木枠の修理が終わると、司祭によって泉に祈りが捧げられ、イコンが飾られた。